

有馬層群のいろいろな石—^{たんじょうさん}丹生山

春木正太郎・岡 記佐子・岡崎聡郎・荻田雅弘・神尾颯太・河津 哲・藤本守美・堀居康一・
舟木冴子・松原 勝・松原陽子・水野康太郎・水野あつ子・水野修司・森本泰夫・
島田大二郎・田中博子

はじめに

地層の中にある岩石や鉱物には、美しさ（例えば透明な石英のキラキラした輝き）や不思議（例えば柔らかい泥や砂がどうして固い石になるの？）があふれています。それらの魅力を皆様にお伝えしていくことが、私たち“石ころクラブ”の活動目的の大切な一つであると考えています。また、地学の図書や地質図などには岩石や鉱物のことが詳しく記述されていますが、書面ではどうしても実感として物足りないものがあります。実物を手にとって見てその美しさやなりたちの不思議さを知り、かつ考えて“大地を実感”していただけたらと心がけて活動しています。ぜひ、この機会に岩石や鉱物や地層の世界をのぞき込み、できうれば一歩中に踏み込んで、人生をより豊かなものにしていただければと思います。

活動報告

2014年から『石ころクラブ勉強会』（ひとはく連携活動グループ）として活動しています。いままでの活動例としては、地層や岩石などの勉強会、地層のはぎとりと展示、現地観察会、地形・地質の模型作り、岩石・鉱物の採集活動などを実施してきました。今年度は、地層や岩石などの勉強会のほかに、三田周辺にある有馬層群（約1億年～7千万年前）を中心に二回の観察会を実施しました。第13回「共生のひろば」では、この観察会について報告しました。

活動の実際（巡検）

①鏑射山：三田盆地の南東にある山体（2017年9月10日に実施）

②^{たいしゃくこうざん}帝釈鉱山跡と丹生山：六甲山地の北方にある山体（2017年11月23日に実施）

活動の内容

ここでは、帝釈鉱山跡と丹生山の巡検について述べます。

1. 帝釈鉱山跡と丹生山、有馬層群

三田盆地の南に帝釈山地が連なっています。ちょうど六甲山系の北側にあたり、裏六甲とも呼ばれています。この帝釈山地の中腹に帝釈鉱山跡があります。

1億年～7千万年前（白亜紀後期）は、日本列島はその姿もなく、まだ大陸の端にくっついて、恐竜がのし歩いていた時代です。このころに西南日本のあたりで大きな火山活動があり、三田盆地周辺に有馬層群の凝灰岩が数段にもわたって積み重なっていきました。その内の1つの凝灰岩層が帝釈山地をつくっています。

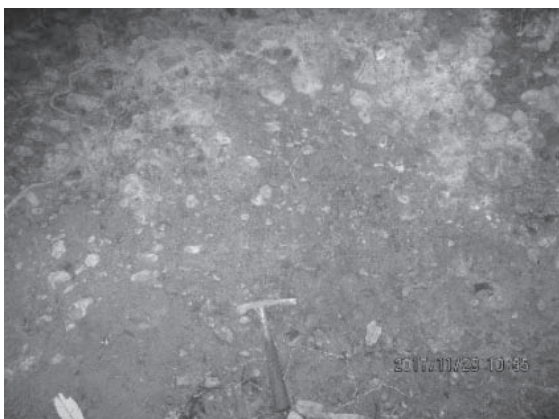
その後の火山活動で帝釈山地の上に丹生山凝灰岩層ができあがりました。

この地域は、そののちも地殻の変動で約3千万年前に湖とその周辺の地形ができて、三田盆地から須磨にかけて水成の地層が堆積しました。これを神戸層群と言います。神戸層群は、帝釈山や丹生山のまわりにも堆積しました。

神戸層群ができてから約1500万年後に、日本海が開いて広がり、日本列島ができました。この日本列島ができてのち1千数百万年が過ぎてから人類が出現し、そして現代人が現れてきました。

2. 展示の地層写真と岩石の標本

展示した岩石標本は、見かけはただの石ころにすぎません。しかしそれらは、私たちにとっては永遠の時の流れとも言える1億年から3千万年の時を経て、今ここにあるのです。こう考えると、なにかロマンを感じませんか！私たち「石ころクラブ」とともに、石ころのロマンを探しに行きましょう。



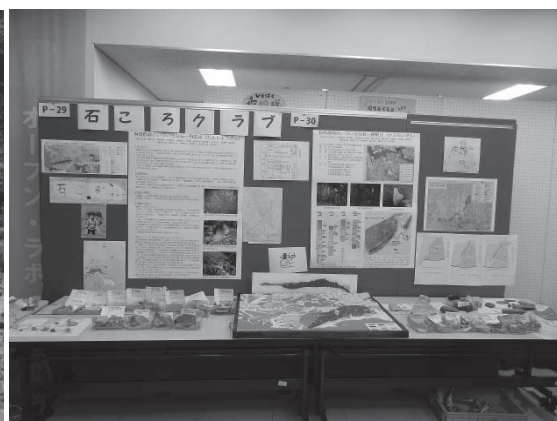
丹生山の山麓に分布する神戸層群の砂礫層



丹生山の山麓に分布する神戸層群の凝灰岩層



帝釈鉦山跡での岩石・鉱物の採集のようす



第13回「共生のひろば」でのポスター展示



ポスター展示を見る参加者たち



磁石で砂鉄をとる子ども向け体験コーナー